

## 第6回 これからのコミュニティ施策の基本的考え方多摩区区域レベル取組検討会結果概要

- 1 日 時 令和元年6月23日（日） 午後2時～4時
- 2 会 場 多摩区役所6階601会議室
- 3 出席者 委員14人、区役所職員3名
- 4 資 料 別添のとおり
- 5 結果の概要と出席者の主な意見

### 【これまでの振り返り】

- 第5回検討会の振り返りを行った。

### 【多摩区におけるソーシャルデザインセンター開設案（中間とりまとめ）について】

- 第5回検討会で決定されたとおり、今回の検討会に先立ち小グループで具体的な取組について意見・アイデア出しを行った。資料1はその内容をまとめたもの。
- 資料1の内容を踏まえ、資料2・中間とりまとめ（たたき台）を作成したので、本日はその中の2～6頁「4 SDCの基本的機能と具体的な取組について」を中心に合意形成したい。
- 議論の進め方については、資料3のとおり、グループ討議でお願いしたい。  
→出席委員を4グループに分け、中間とりまとめ（たたき台）の修正意見の検討を行い、結果を発表した。

#### **グループ1** ※主に次の2項目を検討

- (1) 多摩区を中心に活動しようとする土壌を創る
  - (2) 多摩区内で活動する人に必要なものを準備してマッチングする
- ・(1)の具体的な取組の例示については、次のとおり追加・修正をしたい。

- 地域ごとに人材や団体の発掘調査を行う。
- 地域ごとのネットワークづくりを推進する。
- 上記の発掘調査とネットワークづくりを区全体の活動ネットワークに結びつける。
- 活動の場の確保と運営を行う。
- 地域で活動をしている団体等から事業企画を募集し、資金助成をする。

※他の項目は原案とおり

地域団体の発掘調査を行い、発掘した団体を地域ごと（かなり小さい単位）にネットワーク化することを一段階目とし、これを区に集約して全体のネットワークづくりにつなげていく。活動の場の確保と運営については、地域の中で活動の場に使えるところを発掘して情報共有やその場に関わっていくということ。

様々なスキルを持つ人たちを活用した講座やワークショップは、ネットワークづくりにつながるのではないか。

- ・(2)の具体的な取組の例示について、「フードバンクの運営」は、SDCが直接実施するのではなく、情報を拡散する支援だと思うので、外して「マッチング」に絞ってはどうか。

#### **グループ2** ※主に次の2項目を検討

(3) 地域課題の解決を目指した社会実験の展開

(4) 地域活動への専門的支援

・総論としてはアグリーである。間にある各論については次回のフォーラムでの呼び水であろうということで個別の議論はしていない。大きな丸（太線）の内容について追加記載をした。

・(3) については、ニーズ、シーズ調査のようなものをフォーラムのタイミングで新たに募集してはどうか。

多摩区での活動にはなるが区民に限定しないで、小田急や近隣住民などと連携し、広域連携といった視点が必要ではないか。特に防犯、防災については、多摩川流域の近接する都内の方々との交流が必要。

新規事業を募集していく中では、ステージゲート審査といった考えが必要。ステージゲート1と2で金額に差をつけるなど。ステージゲート審査ができる人材、大学の先生や起業家との連携も必要。

・(4) については、外部の有識者の専門的な知見、学校法人の支援も必要ではないか。

専門家の募集にあたり人材プールが必要。人材募集シートをウェブなどでオープンにしてマッチングしたらよいのではないか。

### グループ3 ※主に次の2項目を検討

(5) 地域で人を育てる仕組みをつくる

(6) 「まちのひろば」への支援

・(5) の説明は、高齢化の問題だけに焦点があたっているように感じた。他の課題にも視点を持つよう「地域課題」という文言を加えてはどうか。また、生徒・学生に「や地域住民」を加えることで、市民全体を育てることにしたい。

ボランティア活動の実施と内容が重複したため2つ目の丸の項目を削除した。

点線内に記載されている、その他のアイデアについて、1項目目に「土曜日」との記載があるが、自身が活動する中で企画側の事情と感じた。利用者にとっては土曜日が難しい人もいるので、週末などという形で限定しなくてもよいと思う。また、「市民自治」という言葉は難しいので、「市民を中心としたまちづくり」としてはどうか。

こどものプログラミング教室について、プログラミングは例示にしてはどうか。

・(6) の1つ目の丸の項目について「販売」は限定的な内容となるため、作成するにとどめてはどうか。

点線内の公園・図書館等の見直しについては、実現が困難であり、例示ではあるが記載については要検討だと思う。

### グループ4 ※主に次の3項目を検討

(7) みんなに届く情報発信

(8) 多摩区内の人と人とを結ぶ

(9) 多摩区の地域特性を活かした取組

・(7) について、「みんな」に届く情報発信の「みんな」というのを実現するには、いろんなところに配慮する必要があると感じた。具体的にいうと、各団体は頑張ってい

るが横の情報共有、つながりができていない、催しが被るなど。そのあたりを改善できればという意見があった。

文章の修正としては、点線内の「必要とする人に必要な物を届けるための方法の研究と実践」を太文字の丸の項目に格上げしたいという意見があった。

- (8) について、「住民・企業・団体の交流イベントを開催」とあるが、これに「大学」を加えた方がよい。この実現には団体間の情報を横串にする仕組みづくりが必要。

点線内の、他都市、他地区やコミュニティカフェ、子ども食堂の連携について、SDC で情報をまとめあげて情報発信できないかという意見があった。

- (9) はそのままよい。

→各グループの発表後、全体での意見交換を行った。

- 太文字の丸の具体的な取組の記載や点線内の記載はあくまでも例であり、フォーラムなどで例示あることを示す記載が必要。
- (5) の点線内の親子向け子育て講座について意見があったが、父親の参加を見越した形で土曜日にしたという理由はある。「週末」でもかまわないので残してほしい。
- 市民自治と市民を主役とするまちづくりは意味が違う。市民が自分たちの生活なり地域の運営を自分たちで考え、自分達で決めていくということが、まさに自治であり、原案どおりとしてほしい。
- 公園・図書館等の見直しに係る記述について、今現在頑ななルールがあり課題になっている。図書館の使い方について実際に見直しが始められている。市民からもしっかりと意見をいうべきである。
- 公園・図書館等の見直しに係る記述は、このままの文章だと関係機関の理解は得られないと思う。良くしていこうというという意味だと進行の中で工夫をして欲しい。
- 「既存施設」と書いてあり、さらに公園・図書館等とあるが違いが分からない。
- フォーラムでの議論が各論に入っていく恐れがあるので、とんがっている内容は敢えて外して議論を促したいという思いがある。
- あくまで検討会で意見が出たという形であり、幅広く示す方がよい。
- 各論としては重要であるが、ここは総論を記載すべき。
- 「土曜日」の記載は、その曜日が難しい人もいる。限定的な記載は外すべきではないか。
- ここにいるメンバーの意見が限定されていると思われるのが心配。委員がかなり偏っていると思われるものとしたい。ここの記載は共通しているものにすべきである。
- このたたき台は、資料1の項目を整理して掲載している。細目から漏れているものがあれば足せばよい。議論があった点をオープンにすべき。
- 中間とりまとめは、中庸を求めるものではなく、色々な意見をもらうためのものではないか。点線内は出された意見を例示しているだけ。
- フォーラムでは、このたたき台のレイアウトで示されるのか。点線内は議論の例示であり、焦点が当てられないよう進行を工夫してほしい。
- 点線内の議論をもとに、太文字の丸の具体的な例示が出された。フォーラムでは議論の流れを説明したうえで行われるべき。
- 点線内（検討会で出されたその他のアイデア）に記載された文言は修正せずそのまま

とし、フォーラムの際の進行を工夫していくということによいか。

→全員賛成

- 資料1に関して、具体的サービスを話し合う中で、次のとおり紐づけを変えた方がよいという意見もあった。
  - ・生田緑地に関する項目(1) → (9) に
  - ・市民団体をつなぐ項目(1) → (2) に
  - ・地域課題解決に関する項目(1) → (3) に
- SDCの立ち上げ方、やり方として、既存の中間支援に取り組んでいる団体のノウハウや成功事例、まずかった点を引き継いだり、共存でも良いが反映するのがよい。英知を吸収して、という内容を加えるべきではないか。
- たたき台の「6 運営について」の項目の一つに加えるのはどうか。

→全員賛成

- ◎ 次回検討会の司会進行をする委員を決定した。

―次回検討会の日時等について―

- ⇒ 次回は、7月12日(金)午後7時から開催する。